

いつまでも全力で走り続けたい



「お囃子や和太鼓が大好きでいつも太鼓をたたいていたい…」と語る小林さん

みのり太鼓 打ち手代表

小林裕弥^{さん}

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.31

師走を迎え、今年もあと数日となった。池花池や遠州池の水面（みなも）がきらきらと輝き、白鳥の遊ぶ姿が私たちの目を楽しませてくれる季節。忙しく過ごした一年をたまにはゆっくり立ち止まって振り返ってみるのもいいかも知れませんが、今回は、みのり太鼓の一員として活躍している大曲地区に住む小林裕弥さん取材する。

後輩たちの目標の存在に

小林さんは小学5年生からみのり太鼓の一員として活躍している。入団した当初はバチを持つ手が痛くて落ち込むこともあったが、少しい間を惜しむことなく大好きな太鼓の練習を続けた。肉刺（まめ）やタコがその歴史を物語る。

小林さんがみのり太鼓に入り、初めて舞台に立ったのは入団して3年目のこと。その後、今ではほとんどのステージへ出演するようになった。来年、1月31日にはみのりれでみのり太鼓公演『温故知新』が行われる。これからのみのり太鼓を創っていくためには、これまでのみのり太鼓に学ぶことも大切。これまでの活動で発展してきたことや大事にしてきたことに気づき、次に繋げるという想いが込められている。今回の公演では、小林さん自身初めての作曲にも挑戦したそうだ。曲名は「Feel」。感じるという意味で

打ち手が太鼓の楽しさを感じてその楽しさをお客様に伝える。太鼓の大好きな小林さんの想いが一杯に詰まった曲に仕上がった。「作曲は初めてで最初は自分で出来るかどうか不安だったが、仕上がった今は本番の日にお客様の反応を見るのが怖いという気持ちと、楽しみという気持ちがある」という。また、「家族のような雰囲気をもつ太鼓のメンバーと居るときが一番楽しい」と話す。太鼓のメンバーは社会人も多く、全員揃って練習できる日も少ない中、本番に向かって皆がそれぞれにベストな状態で上手く力を出し切れるようにしているという。「今度の公演ではお客様がお腹一杯になって帰ってもらうのが一番の目標！」と小林さんは話す。打ち手によって太鼓の響きは皆違おうという。自分たちには正解もないし、限界もない。自分たちがどれだけその音に近づけるのか？公演をするときは必ずお客様にの身になって演奏する。……そんな温かなメンバーの想いがみのり太鼓ファンに伝わっ

てくる。「公演もその年によってメンバーが変わるので今のみのり太鼓を見に来てほしい。今回の公演がゴールではないのでずっと走り続ける……そして将来、みのり太鼓を背負って行けるような人になりたい」と熱く話してくれた。また、公演1週間前の1月24日には、みのりれ風のホールにて、毎年2回開催しているみのりれ文化育成支援事業「太鼓教室」が行われる。親子の部と一般の部とに分かれており、毎回多くの参加者を迎えて開催され、興味を持った方々がみのり太鼓のメンバーへとつながっています。来年1月は太鼓教室、公演とみのり太鼓のみなさんが次に繋がる種を蒔いてくれます。私たちはその種を「幸せの種」として来年も再来年もずっと育ててみたいですね。行く年に感謝。来る年に感謝。今年もみのりれライブのすすめを讀んで頂きありがとうございます。良いお年をお迎え下さい。

（藤田佐知子）